8　糖尿病網膜症の血管閉塞は硝子体手術で回復する？

安藤　伸朗・根本　大志（済生会新潟第二病院眼科）
佐々木　亮

【目的】糖尿病網膜症は，新生血管が生じて増殖網膜症に進行すると，失明の危険性が高くなる．新生血管発生には，網膜毛細血管の閉塞が関与している．そこで網膜毛細血管の閉塞を改善することが出来れば，網膜症による失明を防ぐことが出来る．

【対象】'99年4月から'01年6月までに，済生会新潟第二病院眼科で糖尿病網膜症に対して硝子体手術109例142眼中，術前後の蛍光眼底所見の観察可能な18例21眼．

【結果】手術した21眼で術後血管閉塞が減少7眼（33%），不変9眼（43%），増加5眼（24%）．手術未施行15眼では，減少0眼，不変10眼（67%），増加5眼（33%）．手術眼では有意に血管閉塞領域が，術後に減少していた．

【結論】糖尿病網膜症に対する硝子体手術は，血管閉塞を改善させる効果も期待出来る．今後さらに症例数を重ねて，検討する必要があるが，網膜血管閉塞に対する新しい治療法開発の糸口となることを期待している．

9　当院糖尿病クリニック2年の歩み

浮須　潤子・佐々木英夫
小林　千晶・鈴木亜希子
佐野　和江・石井　幸子
池田由美子・長谷川美代（新潟こばり病院）

平成12年5月に当院糖尿病外来発足後2年が経過し，外来患者数は150人から512人まで増加し，平成12年10月には友の会が発足（会員43名），定期的に試食会やウォークラリーも行っている．当院の糖尿病外来は，採血・採尿→看護外来→医師の診療（当日の検査結果をもとに）→栄養指導という流れになっており，治療の核となる栄養指導は入院中は最低でも2回は指導が入り退院後も引き続き外来日に行っている．HbA1cは7.27±1.10%から6.53±1.08%まで改善したが，コ・メディカルの協力もあり受診日の時間を有効に利用して啓蒙及び指導が行える環境が治療成果に大きく貢献していると考えられる．

10　当院の糖尿病診療における診療連携

中村　宏志・中村　隆志
東山治花子・坂井　美恵（中村医院内科）
井上　圓
中村　隆志（新潟薬科大学薬理学教室）
佐藤　朋子・渡辺満里子（吉田町保健センター）
坂井　豊明（坂井眼科医院眼科）
阿部　道行（県立吉田病院内科）

【当院で治療中の糖尿病の診療連携】最近3年間当院患者で病院へ診療を依頼した者（血糖コントロール，合併症の治療など）は40名で，うち32名は返事をいただいた後当院に再び通院している．糖尿病診療に関して，他の医療機関から12名当院へ診療を依頼された．他の医療機関へ転医したいと希望した者が17名おり，いずれも紹介した．眼合併症に関しては，当院で治療中の糖尿病患者全員に眼科受診をすすめ，うち80%は坂井眼科医院に依頼している．腎症に関しては，当院から血液透析を依頼した者は4名であった，行政（自治体）とは，栄養指導依頼，住民健診との診療情報交換，糖尿病教室の講師，耐糖能障害者個別指導への協力などを通じて連携している．

【他の医療機関で治療中の糖尿病の診療連携】他の医療機関で治療されている糖尿病患者（当院には糖尿病以外の疾患で通院中）について，出来る範囲で患者教育・主治医への診療情報提供などでコントロールの改善，眼科受診のすすめ，などを行っている．

11　栄養・看護外来に対する患者の認識と要望
―アンケートを実施して―

石井　幸子・佐野　和江
池田由美子・長谷川美代
浮須　潤子・佐々木英夫（新潟こばり病院）

当院では平成12年5月より糖尿病センターを開